

県庁の組織。パフォーマンス向上のための新しい働き方の推進 （県民本位で質の高い行政サービスを実現するために）

兵庫県総務部職員局人事課

現在は、これまでに例のない人口減少と少子高齢化、デジタル技術の急速な進展等、変化が激しく複雑な時代にあります。その中で、今後も質の高い行政サービスを提供し続けるためには、前例踏襲ではない新たな発想による県政推進が必要です。一方、兵庫県庁では、人員・財源が限られる中、依然として長時間勤務が発生し、また、申請・届出等の行政手続やバックオフィス業務のデジタル化の遅れといった課題があるため、県庁の働き方の抜本的な見直しを進める必要がありました。そのような状況の中で、令和5年2月に「新しい働き方推進プラン」を策定しました。

本プランは、各部署に対する意見募集や職員を対象としたアンケートの実施のほか、若手職員提言チームを設置するなど、多様な手段により職員の声を丁寧に取りながら策定しました。全庁的な働き方改革の展開に向け、令和6年度までの具体的な取り組み等を定めています。

1. 若手職員提言チーム 「SWGs」からの提言

プラン策定にあたっては、若手職員の固定観念にとらわれない柔軟な発想を取り入れ、これからの県政を担う職員自らが、自らの働き方について考える場を設けることにより、新しい働き方に対する意識向上を図ることを目的に、若手職員による提言チームを設置しました。メンバーは30歳以下または入庁5年目以下の職員14名で、理想の働き方や現状の課題についての意見交換を行い、最後は知事への提言を行いました。

チームメンバーは、いつまでも意欲と熱意を持ち続けながら県民のために全力で働くため、公務内外で知識と経験の幅を増やすとともに、やりがいを感じながら働き続けられる職場を作ることが、幅広い視点や高い人間性を持った職員を育て、県職員を含めた全ての県民の幸福の実現に繋がると考えました。そこで「誰もが幸福感と満足感を



提言の様子

新しい働き方に関する若手職員提言チーム
 **SWGs** (Sustainable Work Style Goals/Group)

持つて生きられる 持続的な幸せ (Well-Being) の実現」をチームビジョンとし、チーム名もメンバーが自ら考え、「SWGs (Sustainable Work style Goals/Group)」と決定しました。

提言のコンセプトは「十人十色の働き方」

creation of new value」となりました。十人いれば十通りの働き方があり、それぞれの理想の働き方の実現に向け、職員同士が互いに助け合える職場を実現することが、持続可能な働き方に繋がるといえる考えです。

チームから提言された具体的な取組みは、全て新しい働き方推進プランに取り入れられており、「新しい働き方体験スタンプラリー」の実施や、庁内統一のコミュニケーションツールと予定管理ツールの積極的な利用など、実現可能なものから実施を進めています。残りの取組みも実現に向けた検討が進められており、若手職員の提言を活かした働き方改革を推進しています。

2. プランの目指す姿

プランの目指す姿は、県庁の組織パフォーマンスの最大化による県民本位で質の高い行政サービスの実現です。そのため、次の5つの施策に取り組んでいます。

1. 柔軟で多様な働き方の推進
 2. 休暇・休業制度の活用促進
 3. 超過勤務の縮減
 4. ICTを活用した業務改革の推進
 5. 職員の意識改革、職場風土の醸成
- 5つの施策はそれぞれ独立したのではなく、相互に密接な関係を持っており、本プランに基づいて総合的・一体的な推進を図ります。

3. プランの推進体制

新しい働き方の推進にあたっては、全庁が一丸となったPDCAサイクルを構築するべく、幹部職員による「新しい働き方推進委員会」を設置しています。また、昨年の提言チームのような「若手職員提言部会」を新設し、公募で集まった今後の県政を担う若手職員が引き続き取組みの検証と対策の提言を行う体制としています。

全職員が、働き方改革を「我が事」として考え、自発的・主体的な取組みを促し、柔軟で多様な働き方を推進しています。

4. 新しい働き方モデルオフィス

プランに基づき、テレワークやデジタル化といった新しい働き方に合った県庁舎のあり方を検討していくため、「新しい働き方モデルオフィス」という取組みを令和5年6月から令和6年2月までの期間で実施しています。本庁の各部局が1カ月ごとに交代でモデルオフィスでの勤務を実施し、新しい働き方を実践しています。

モデルオフィスでは、職員のうち庁舎への出勤を4割・在宅勤務を6割程度とする、公務部門では全国初となる大胆なテレワークを実施し、実際の業務に支障があるのか、あるとすればどのような課題が生じるのかを検証しています。その他、部屋は間仕切りのないオープンオフィスとし、課室の区切りをなくしたフリーアドレス制を採用し

ています。さら

らに、ペーパーレス・

ストックレスを

推進するため、

デュアルモニ

ターを設置し、

コピー機や書

棚の台数を減

らすなど、こ

れまでの県庁

の働き方とは

大きく異なる働き方にチャレンジしています。

モデルオフィスの取組みは、業務効率、業務管理、職員満足度等の視点から、評価・検証を行い、新たに生じた課題に対する対応策を検討していきます。

5. おわりに

プランが目指す姿で掲げているとおり、県庁の新しい働き方の推進の目的は、県庁の組織パフォーマンスの最大化による県民本位で質の高い行政サービスの実現です。ワークライフバランスを実現し、生産性の高い職場環境をつくることで、誰もが希望を持って働ける「躍動する兵庫」を実現します。



モデルオフィス